

# 第21回定期演奏会



# 小田原男声合唱団

客演指揮・外山浩爾  
指揮・渡辺 己

客演ピアノ・小林 功  
専属ピアノ・岩崎紀子  
室内アンサンブル 白井英治 他

## 「やさしい魚」

川崎 洋 作詩  
新美徳英 作曲

## 「雨のやみかた」

宮内徳一 作詩  
萩原英彦 作曲

## 「光の海」

多田智満子 作詩  
遠藤雅夫 作曲

## 「ウインナーワルツ集」

J. シュトラウス 作曲  
美しく青きドナウ  
常動曲  
酒・女・歌



日 時 1992年7月11日(土) 18時30分開演  
場 所 小田原市民会館大ホール 全自由席 1,000円  
主 催 小田原男声合唱団 問い合わせ 井上楽器 0465-24-0515

第21回定期演奏会



# 小田原男声合唱团



日時 1992年7月11日(土)18時30分開演

場所 小田原市民会館大ホール

# あいさつ

小田原男声合唱団

団長 柏木 秀茂

本日は、大変お忙しいところ、私たちの演奏会にご来場をいただき、誠に有難うございました。ここに第21回定期演奏会を迎えることができましてことに、心より感謝申し上げます。

今回の演奏会には、明治大学グリークラブなどで活躍され、東京芸大付属高校の副校長として教鞭を執っておられる外山浩爾先生をお招きすることができました。先生のご指導により格調の高い、また“完全燃焼の男声合唱”をお聴かせできないかと思っております。私たちにとりましても大変楽しみなステージとなっております。

また、日本人の作品を3つのステージで取り上げましたのも今夜の演奏会の大きな特徴といえます。「やさしい魚」の新実徳英と、「雨のやみかた」の萩原英彦、両先生につきましては、合唱をされた方ならば、ご記憶があるかとも思いますが、ここでは「光の海」の作曲者遠藤雅夫先生について、簡略ですがご紹介したいと思います。

先生は、1947年東京で生まれ、芸大付属高校、東京芸大、同大学院を修了されて、石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三各氏に師事されています。第37回(1968)日本音楽コンクールに入選され、1972年音楽の友社作曲賞を受賞されておられます。現在は、東京芸大、東京音大で教鞭を執られ、その作品も室内楽、オーケストラ、合唱作品と多岐にわたっています。

最後のステージは白井英治先生のご好意でアンサンブルの伴奏によるウィンナ・ワルツを歌うことができたことになりました。これも楽しいひとときを過ごせることと思えます。

21回目という飛躍の年にあたり、今年も市民合唱祭や10月18日(日)南足柄中学校での公演のほか、10月31日(土)の西湘音楽フェスティバル、11月22日(日)名古屋での日本男声合唱協会(JAMCA)の演奏会にも出演します。

今年も団員の平均年齢は高くなりましたが、“年はとっても情熱だけは負けない”をモットーに“完全燃焼の男声合唱”を目指し頑張りますので、最後までご声援をよろしく願いたします。本日は大変ありがとうございました。



第20回記念定期演奏会

客演指揮



外山浩爾

父に日本楽壇の功労者たる外山国彦氏、兄に外山雄三氏といった音楽一門に生まれ、幼少の頃より、父・国彦氏、有馬大五郎、岡田九郎両氏により本格的音楽教育を受ける。東京芸術大学声楽科に入学後、柴田睦雄、ヴァーハーペニツヒ、リア＝フォン＝ヘッサート諸氏に師事。卒業後、直ちに同大学及び付属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団に参画し、「カルメン」をはじめ多数のオペラに出演した。  
現在では全日本合唱連盟活動の推進に力を注いでいらっしゃいます。

指揮

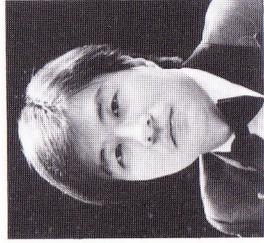


渡邊 決 己

幼時よりヴァイオリンを三浦二郎、鷲見三郎、日比野愛次各氏に師事、小学4年生で東北地区器楽コンクール入賞、ラジオ放送される。ピアノを田村 宏、清水（江藤）玲子各氏に、桐明学園音楽科指揮聴講生として、故斎藤秀雄氏に指揮法を作曲を島岡 譲、中村太郎各氏に、芸大にて、三石精一、故金子 登各氏に指揮を、菅弦楽法を佐藤 真氏に、声楽を伊藤亘行氏に師事、芸大卒業後、財団法人 神奈川フィルにて9年間指揮者として活躍。泉民ホールにてボニーージャックス等の協演を得てデビューする。また、NHK交響楽団で指揮研究を行い、菲崎での演奏会にてN響を振る。又、東京室内歌劇場主催の数々のオペラやミュージカル“ピーターパン”“ジプシー”等を指揮し好評を博す。また指揮のかたわら坂東玉三郎、真田広之、堤 真一、井原剛志等の音楽指導等にも力を入れる。

尚、昭和61年度より藤沢市社会教育委員、昭和62年度より小田原男声合唱団の指揮者となる。

ピアノ



小林 功

東京芸術大学付属高校、同大学を経て、1981年同大学院終了。その間、文化放送音楽賞受賞、芸大定期演奏会出演、読売新聞新人演奏会出演。

1983年 西ドイツ、フライブルク音楽大学にて、西ドイツ国家演奏家試験合格。

現在、宇都宮大学教育学部音楽科で指導にあたる。広瀬恵子、久保みち、伊達純、アンドレ・マーシャ、エディット・ピヒト・アクセンフェルト諸氏に師事。

ピアノ



岩崎 紀子

1991年、桐明学園大学音楽学部ピアノ科卒業。辛島仔緒子・小森谷 泉各氏に師事。又室内楽法を岩崎 淑 渡邊康雄、平吉毅州、井上直幸、井上頼豊各氏に師事を仰ぐ。同大卒業と同時に女声合唱団クール・ベルマモンの専属ピアニストに就任。指揮者渡邊決己氏の指導、推薦で活躍の場を小田原男声合唱団の練習ピアニストに広げ、小田原地区のモーツァルト「レクイエム」で練習ピアニストとして参加し、小田原男声合唱団にて努力を重ねる。本日ここに専属ピアニストとしてデビューすることになった。

## 小田原リングアンサンブル

ヴァイオリン	白井 英治	チェロ	浦井 勝美	クラリネット	弘松 麻実
ヴァイオリン	小沢 恵子	コントラバス	畑中 宏之	ホルン	宮野 大輔
ヴァイオリン	船山 千秋	フルート	中村 恵	ホルン	白谷 隆
ヴァイオラ	白井 琴治	クラリネット	井上 弦		

# プログラム

## I 川崎洋の詩による五つの男声合唱曲・やさしい魚

作詩 川崎 洋 英  
作曲 新 実 徳

感傷的な唄

ジヨギングの唄

天使

鳥が

やさしい魚

指揮 渡辺 崎 己 子  
ピアノ 岩 紀 子

## II 男声合唱組曲 雨のやみかた

遠 雷

水郷の虹

しずく

見た

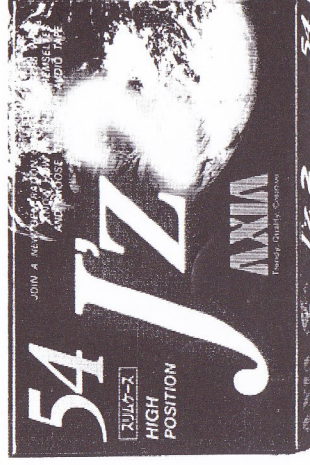
雨のやみかた

作詩 宮 内 徳 英 彦  
作曲 萩 原 一 彦

指揮 外 山 浩 爾

# 音楽の星、JZ誕生。

# AXIA



Ⅲ 〈光の海〉

男声合唱とピアノのための

作詩 多田 智満子  
作曲 遠藤 雅夫

第1楽章 夏の少年

第2楽章 輪廻

第3楽章 祈り

第4楽章 菩薩の海

指揮 外山 浩爾 功  
ピアノ 小林 功

Ⅳ JOHANN STRAUSS 名曲集

An der schönen blauen Donau

美しく青きドナウ

PERPETUUM MOBILE

常動曲

WEIN, WEIB UND GESANG

酒、歌、女

指揮 渡辺 決己  
小田原リングアサンブル

株式会社河合楽器製作所

●ピアノ・電子オルガン・電子ピアノのご用命は

**KAWAI**

相模学校販売店

厚木市中町3-18-4  
☎(0462)22-1939

やさしい魚

川崎洋の詩による五つの男声合唱曲

五つの詩に寄せて

川崎 洋

五つの詩はすべて作曲される事をまるで予期せずに書いたものだ。新実徳英さんが、わたしの詩集から拾い上げてくださったのであろう。新実さんにわたしはお目に掛かった事もなければ、電話でお話した事さえもない。詩集として本屋にならんだものは、既にわたしの手から離れて一人歩きしている。それが突然作曲されて、音楽雑誌の別冊付録の形などでその譜面を拜見するのは、家を出ていった娘がある日、前触れもなく結婚式の知らせを送って寄こしたようなもので、驚きと喜びを同時に味わうことになる。合唱は聴くだけがあるように思う。学生の頃、グリーククラブで歌ったしには少々だがあるように思う。旧制専門学校を2年で中退するちよっとの間)、横須賀の混声合唱団で数年間合唱を楽しんだ。今はもっぱら聴いて楽しむ側にまわっている。でも聴きながら、「歌っている人たちはどんなに楽しんでいる」と羨ましく感じる気持ち拭い去る事が出来ない。結婚式に参列する誰よりも、新郎新婦がいちばんうれしに決まっています。

「感傷的な唄」は、題の通り、自分がセンチメントに弱れるのを、たまには許されることだろうか、とはばかり涙腺のネジを、いたづらにゆるめたるような詩で、ほんとはかなり当人にとっちは恥ぢずかしい代物だ。でも一人歩きたのだから、どうしようもない。ああ。5連目の「体温計のケースに…」は、フィクションではない。ああ。

「ジョギングの唄」は、自分の気に入っている詩の一つで、いくつか常套句だけで詩をものしりたいと思っている。人の目を誘い寄せる新奇なイメージを恣意の欲しいままに彫琢するより、思念や情感の根を地におろしたところを詩を書きたいという気持ちから生まれたのだと思う。それは生き方という事にもなりますが。

「天使」は、ずい分前に書いた詩なので、ありありとは覚えていないが、ふっと涌いたイメージをもとに、衝動的に短時間のうちに書き上げたような気がする。「ひどいこと」は、天使のいう純粹無垢なイメージの衣を裂き、「(天使の)傷ついた翼」に続いて、その口調に乗ってかなり嗜虐性のある、たぶん野卑な言辭を弄しそうになる…という事だったように思う。天使への愛憎と叫ぶところ。もうこんな詩は書けない。

「鳥が」は、カレンダーの鳥と花の絵柄に刷り込む詩として依頼されたものです。鳥も人も花も、見た目の形状ほど、実はお互いに変わってはいない、血のつながった存在なのだという気持ちにわたしたしにはある。

「やさしい魚」は、子供がひとりで絵を描きながら呟くような具合に、いい年をした大人が、その呟きを文字にした詩です。やさしさのうろこが剥かれる痛みです。



お食事 送 亭

お堀端通り

小田原市栄町1-13-31

TEL 23-3631

表現すること

新実 徳英

表現という言葉は随分いろいろな使われ方をしている。広義には——心的状態・過程・または性格・志向・意味など総じて精神的・主体的なものを、外面的・感性的形象として表すこと。また、この客観的・感性的形象そのもの、即ち表情・身振・動作・言語・手跡・作品など。表出。——とある。かように幅広く定義されているのを見ると、人は勿論のこと、犬猫、草木、その地上のありとあらゆる生あるものが絶えず何かを表現しながら存在しているようにすら思えてくる。さて、私たちは表現という言葉を「この曲で表現したかったのは……」とか「あなた自身をもっと表現すればあなたの演奏は……」とかいった具合にしばしば使ったが、作曲することによって表現したかった何かや表現したいあなたが、あなた自身、とはいったい何なのか。これを言葉でもって正確に掬い取るのはなかなか難しい。

私たちは生きています。外界に開かれた五感のもとに。私たちは常に何かを見、聴き、嗅ぎ、味わい、触れ、その後感じ、観ずる。このことこそ、表現の源であるに違いないのだ。言い換えれば、より良く・より充分に感じ・観ずることが大切なのである。

沖に砕ける白い小さな波が・野を吹きわたる一瞬の風の音が、遠くから運ばれてくる沈丁花のほのかな香りが、口に含んだ葡萄酒の成熟や未成熟が、肌に触れる初秋の空気が、そんなはかないものたちです。音楽や詩や絵の世界で作品に昇華され得るのである。そして、それら作品は再び私たちの五感に訴えかけてくるのである。

作曲という表現行為が完結し譜面ができ上がる。が、これは真の完結ではない。より良く・より充分に感じ・観ずる人々がこの譜面を手にとり、かつて私のうちに張んだ音は今度は輝ける音として外に表出されてゆく。それは演奏する人々の、聴く人々の、そして私の裡に何かを生起させる。一つの、環が閉じ、また新たな環へと拡がっていく。私たちは音楽の言葉で表現する。深く大きな喜びがここにある。(音楽の友社「やさしい魚」解説)

雨のやみかた

—宮内徳一の詩による五つのうた—

幾年前の12月、詩人 佐藤義美氏の命日に氏を追憶する集まりが催された。その席で、私は不思議な老人(……と書かないと絵にならないのでお許し願いたい)に引き合わされた。この不思議な……という印象は、私の心になにか啓示が与えられるときに生ずる予感とでも言えるもので、それが、いまにして思えばこの作品誕生の原点ともなるべきものであった。

それから間もなく私のもとにお送り戴いた詩集「りぼんとふん」を読みながら、宮内徳一氏がこの世に満ち溢れている虚飾というものはおおよそ無縁の世界に生き、独自の語法をもって綴られた詩の、素朴なるが故の迫真性に驚きの声を挙げずにはおられなかつた。そして、詩句の行間を充足する心地よい Agogik (時間の軸

にはたききし  
たとききし  
る明消  
男声され  
され  
会館  
講堂  
再演

浩  
4  
て  
セ

にはたらく速度の緩急)をその朗読の繰り返しのうちに手にいれたとき、もう概ねの作品の構想はでき上がっていた。

そして、この作品は、畏友 外山浩爾氏が指導にあたられている明治大学グリークラブの委嘱作品として完成され、東京六大学男声合唱連盟第38回定期演奏会(1989年5月3日)に於いて初演され、好評をもって迎えられた。つづいて京都府長岡京記念文化会館での立命館大学との合同演奏会、同年12月の学習院大学記念講堂に於ける明治大学グリークラブ第38回定期演奏会に繰り返し再演がおこなわれた。

(カワイ出版「男声合唱のための 雨のやみかた」解説)

## “光の海”

### —男声合唱とピアノのための—

この作品は明治大学グリークラブの委嘱により作曲され、外山浩爾氏の指揮、小林功氏のピアノにより、1991年5月3日、5月4日の両日行われた第40回東京六大学合唱連盟記念演奏会において初演された。当日のプログラムに作曲者自ら、次のようなメッセージを寄せられている。

この作品には1989年の秋から1年かかりました。当初ザルツブルグで初演する予定でしたが、湾岸戦争のあおりで明大グリーへの渡航は中止となり、本日が初演であります。

＜光の海＞は多田智満子先生の1980年の詩集「運食いびと」より3編、又ヴォェーカーズによる第3楽章も加え合計4楽章から成り立っております。

作品は明確な構成になっております。大波の中で揺れ動くかのような少年と夏の第1楽章。生唾をこぐりと飲むごときスリルが味わえる追いかけてこの第2楽章。ピアノが切々と歌う第3楽章。過去現在未来とたゆまなく歩み続ける時間を受け入れる第4楽章。

私の男声合唱作品は無伴奏のものが多いのですが、「出来るだけやさしくそれで効果のあるピアノパートが欲しい」とのピアニスト小林君のたつての希望を入れて今回ピアノは充分活躍するように書かれております。(決してやさしくはない！)

外山先生にはこの作品も含めまして既に何曲もの初演を振って頂いており、私のコンセプトを充分飲み込んでおられ、作者としてはひたすら感動の念で一杯であります。

同じプログラムに、作詞者多田智満子氏も次のようなメッセージを寄せられている。

音読したとき耳に快いものであるのが詩の本来の在り方です。現代では詩の音楽性が無視されがちですが、一方では詩の朗読も盛んに行われ、詩の韻律性も問い直されようとしています。

## ヨハン・シュトラウスの男声合唱曲

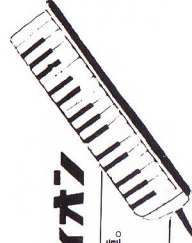
福永 陽一郎

ワルツ王・ヨハン・シュトラウス2世は、長い年月にわたって、Wiener Männer-Gesangverein ウィーン男声合唱協会と親密な

あなたの

ススキXロディオX

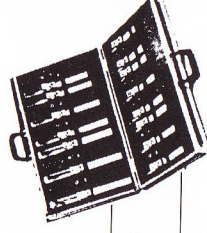
ソプラノからバスまで13機種。  
演奏性・用途に合わせた  
メロディオン。



おなじ主役

トーン・チャイム

創造するよろこびが、音楽のよろこび。  
トーン・チャイム。



株式会社 鈴木楽器製作所

〒430 浜松市須家2-25-11 TEL.<053>461-2325(代)

鈴木楽器販売株式会社

神奈川(営)：横浜市緑区すすき野2-6-6 TEL.045-901-2160

友好関係を結んでいた。ワルツ王が男声合唱のワルツを書いた最初は、1867年のことで、その曲は、のちにワルツ王のトレード・マークになった「美しく青きドナウの流れ」であった。その年の2月15日に男声合唱協会によって演奏、発表されたその曲は、しかし、あまり好評を得られなかったという。

この曲が大成功したのは、半年後のパリでの万国博覧会で、オーケストラ版が演奏されたとき以来で、その後、急速に欧米全国に知れわたった。

日本では戦前から女性合唱曲として広く愛唱され、混声合唱でも演奏されたが、オリジナルの男声合唱ではなかなか演奏されるチャンスがなかった。(二長調というオリジナルの調性が、日本の男声合唱団にとっ高音すぎるとい事情もあった)

題名の「美しく青きドナウ」は詩人カール・ベックの「愛の詩」から採られたが、曲の歌詞はその詩と関係なく、初演の際はヨーゼフ・ヴァイルの書いたものが使用された。(ヨーゼフ・ヴァイルは、ワルツ「酒・女・歌」やポルカ「合唱団員の喜び」などの作詞者でもある)しかし、現在では、フランツ・フォン・ゲルネルトの作詞した“Donau so Blau”で始まる新しい歌詞で歌われるのが普通である。日本語歌詞は有名な堀内敬三訳である。

ヨハン・シュトラウスは、「美しく青きドナウ」に次いで、ウィーン男声合唱協会のために、1868年にポルカ「(男声)合唱団員の喜び」を作曲し、1869年にワルツ「酒・女・歌」を作曲した。このワルツは、その年の2月2日に初演された。いずれも男声合唱ならではの題材である。「酒・女・歌」は、ドイツ＝オーストリア風の“乾杯の歌”のスタイルによるかなり長い導入部を持ち、オーケストラのみの演奏では、しばしば省略されるが、この部分に男声合唱の魅力がたっぷり盛り盛られていて、オリジナルの形では欠くことができない。

ヨハン・シュトラウスのオリジナルの男声合唱曲は以上の3曲だけでなく、1870年作のワルツ「新しいウィーン」、1881年のフランス風ポルカ「若者たちの徒歩旅行」、1881年作のワルツ「ミルテの花盛り」、1881年にブラターナーの合唱祭のときにウィーン男声合唱協会が歌ったワルツ「大ウィーン」がある。「大ウィーン」はフランツ・ゲルネルトの作詞によるもので、「美しく青きドナウ」の新歌詞も、このときに作られたものと思われる。

「常動曲」は、勿論、オリジナルの男声合唱曲ではない。しかし、このテレビ番組等でもよく知られたヨハン・シュトラウスの名曲は、昔々、SPレコードの時代の数々の名唱で人気が高かった男声8重唱団「コメディアン・ハーモニスト」の得意のナンバーで、その超人的なスキヤット唱法は、男声合唱愛好家内での語り草であった。それを再現したいともろくんだ編曲である。いまは「常動曲」という名称で規定されているが、昔は「無窮動」と訳され、実際にヨハン・シュトラウスのこの曲は、一度、演奏が開始されると無限に続くように作られている。(第11回定期演奏会プログラムから)

第11回定期演奏会と同じプログラムのシュトラウス名曲集、今回の演奏では、「常動曲」を渡邊決己編曲の改訂版で、「酒・女・歌」を管弦楽伴奏付きのオリジナル版ではなく、オーケストラ版に男声合唱を付けた形で歌います。繰り返しの部分や、フレーズの細かい処理など、耳新しい響きをお届けできるかと思えます。

# 歌

## 詞

### やさしい魚

——詩集「象」より

川崎 洋

#### 感傷的な唄

風が吹くから  
生きよう  
そう思う前に  
もう足が駆け出していた

風が吹くから  
見えないものを  
信じることをできた

不意に思い出す  
トンボがながるとき  
カシャ という音

小鳥の歌に  
人間の歌で返事しよう  
と思っただけのこと

体温計のケースに  
しのばせて  
手渡そうとした恋文は  
とうとう渡せないまま  
あれから  
どこへ行ったのだったか

唄好きな蝶番は  
他の星から飛んできた風船と  
よく話をしていたし  
位の低い神様のペンチには  
主題のない招待状が  
陽に光っていた

死んでしまっ  
肉体もすっかり滅びても  
私の

もう此の世のものではない耳に  
美しい歌だけが聞こえてくる  
そんな祈りが  
もしかして  
適えられないうらうか

——詩集「食物小屋」より

#### ジョギングの唄

おれは常套句を愛する  
すなわち「自分の歩幅で」  
というやつだ  
および腰の知性なぞ  
古い運動靴のように打ち捨てて  
わっしょい

人は  
よりよい明日をつくり得る  
と  
意地でも思いこんで わっしょい

心臓から押し出された血が  
ふたたび心臓にもどるのに  
18秒しか かからぬそうな  
寸刻ごとに  
新しいのだぞおれは わっしょい

おれの生き方は こうなのだ  
こうなのだ  
こうなのだ  
と確かめながら  
いとしい地球を踏んで行くのだ  
わっしょい

——詩集「象」より

#### 天使

まなざし  
だけが  
みえる

めのかたち  
でなく

まなざし  
という

じのむこうの  
いめーじ  
が

おなじように  
つばさ  
の  
きずが

そして  
てんし  
に

ことよせて  
ひどいこと  
を  
いいそう  
に  
なる  
のを

いっしょうけんめい  
に  
こらえる

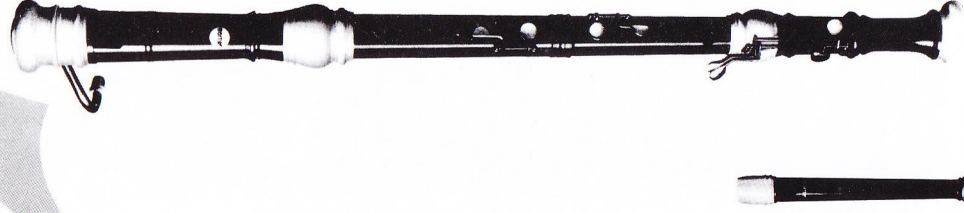
——詩集「食物小屋」より

#### 鳥が

鳥が  
空を見上げるように  
花が つぼみを ほどく

ALIOS®

# from クライネ to バス・アウロス。



シンフォニー No.501 S シンフォニー No.533

アウロスが語る超精密技術師の結晶。

格調高い「ロソク調」のデザイン。

奏者に伝える絶妙の「ブレイジング」。

世界一流「ブレイヤー」絶賛の名器。

ソプラノ・アルト・リコーダー 全機種

**新考案・指かけ付!**

515型専用指かけ付は、従来の取付

別冊66 ソプラノ100冊、アルト・200冊

## トヤマ楽器製造株式会社

東京本社/〒174 東京都板橋区大原町41

☎03-960-8301代

大阪営業所/〒541 大阪府中央区北久宝寺町2-1-7

本町和光ビル802号 ☎06-264-7191代



感じあう心たいていに  
feelin' YAMAHA

## Yamaha makes New Tradition

カスタムトランペット

独自の組成のイエローブラスを開発し、  
より重く厚いワッフルな音色を実現。  
敏感で柔軟な表現力を探究。

株式会社 宮地商会

東京都千代田区神田小川町1丁目4番地  
電話 (3255) 2751 番(代)

鳥が  
羽ばたこうとすするように  
花が 葉をしげらせる

鳥が  
飛びたつように  
花が 咲きそめる

鳥が  
歌うように  
花が におう

そして

人は ことばで  
鳥のように飛び  
花のように咲く

——詩集「象」より  
やさしい魚

やさしい魚のやさしいころが  
月曜日に一枚火曜日二枚剥がれた

剥がれたころは銀色にひかりながら  
海の中見えない底へ沈んでいく

やさしい魚のやさしいころが  
水曜日に三枚木曜日に五枚剥がれた

ころが剥がれて  
やさしい魚はひりひり痛い

やさしい魚のやさしいころが  
金曜日に十四枚土曜日に三十八枚剥が  
れた

日曜日 歌おうと海に来てみれば  
砂に終止符のようなやさしい魚のなき  
がら

## 雨のやみかた

宮内 徳一

### I 遠雷

小さな漁港  
水面が少しゆれて  
小舟たちが  
軽く肩をぶつけあっている  
低音の会話  
ときおひくい雷もきこえる

### II 水郷の虹

水郷とよばれる水辺の町  
あっちにも こっちにも  
渡りたい橋があつて  
その一つをわたったとき  
あ もう一つ  
ほら 水と空のあいだに  
今 かけられた あざやかな橋

### III しづく

はっぱの先っぽに  
光るしづく  
雨あがりのみどりをあつめて  
だんだんふくらんで  
さあ落ちるって思ったとき  
もう消えていた  
まばたきしなかったのか  
見たのか見なかったのか  
でもそのとき  
小人が二人飛びだしたのだ  
たしかにそこから飛びだしたのだ

### IV 見た

見た 見た 見た  
てんと虫

はじめてなんかじゃなければ  
見たなって感じて きょうは見た  
てんと虫  
葉ずえできみが とびたつまでを

見た 見た 見た

あげはちょう

はじめて見たんじゃないけれど  
見たなって感じて きょうは見た  
あげはちょう  
地めんできみが 水吸うところ

## V 雨のやみかた

わたしは雨。もうじきやむ雨。  
きょうは朝からいちんち降ったから、あつち  
の屋根もこちの木も、ほどよくぬらして降  
ったから、もういいいや、雨降りはおも  
おしまいにしようと思った。

雨のやみかたにもいろいろあるけれど、きよ  
うみたいに 夕かた近くにやむのいい。  
ほら まだ日が暮れきらないころ 思いき  
てさつと降りやむ。すると あたりがいき  
き ぱーと ほっとするようにあかくな  
る。そんなやみかたなんかも気に入って  
から、よし それでいいこうと思ったのだ。

ところが、そのときわたしは見つけてしま  
った。赤いころもりがさの女の子をね、あれ  
は、あたらしいかさだな。くるんくるんまわ  
したり、とても楽しそうだ。あの子は 雨な  
んかきらい。なんて思ったりはしないんだ。  
だから、いまやんでしまつては かわいそう  
だ。もう少し降っていてあげようと思つた。  
もう少し ぼつんこぼつんこでいいから、  
あの子がうちにかえるまで、降っていてあげ  
ることにした。うん きょうのやみかたなん  
かもなかなかいいな とわたしは思った。

## 光の海

夏の少年 多田 智満子

1 たくさんの裸足の駆けまわった大地の上に  
ぼくたちもよこたわる  
だれとも抱き合わないで  
どんな未来よりも完全な子供になつて

2 ほくたちぶらぶらさがる  
ひるさがりのぶらんこ  
熱れかけたあけびのみのような  
ほくたちのかすかなあくび

3 そのむかし一つの噴水から出発して  
広場の四方八方へ進んでいくぼくたち  
まぶたを失つた太陽が  
くりかえしくりかえしみる 放射状の夢

4 足のうらで波を蹴りあげ  
泥の岸を遠ざかる  
腕を前へ前へとのぼし  
おそらくは紺青の古代の沖をめざして

5 父の骨を鏝にして未熟な種をまき  
白堊期の記憶の上に夏を育てる  
それぞれ時代にそれぞれの森  
それぞれの時代にそれぞれの墓場

6 休み中にとつた蟬の死骸を  
ケルムのように積み上げ  
虫とりあみかついで去っていく  
また次の一段と背の高い夏に向かつて

## 輪廻

くるるて くるるて  
くるるた犬がまわてる  
しっぽは逃げる鼻追いかける  
ひとりひでひとつの輪がつくれぬ

くるるてさ 来るるてさ  
くるるたおまわり来るるてさ  
ぐるぐる巻にされないうちに  
ぐるのどろぼう逃けたとさ

くるるてさ くるるてさ  
みぐるみぬいで顔ばかり  
てるてる坊主まわってる  
てる日くもる日まわってる

お先まっくら歯がぐらぐら  
鞍馬天狗はお山にかえる  
覆水盆にかえらぬが  
死んだおふくろお盆にかえる  
くるるてさ くるるてさ  
くるるた人がまわってる  
うつは逃げるゆめ追いかける  
ひとりひでひとつの輪がつくれぬ

## 菩薩の海

海

うちよせる波  
千手の指を折りまげて

無限をかぞえる菩薩の算数

《所謂一百洛叉を一俱胝となし

俱胝の俱胝を一阿婁多となし

阿婁多の阿婁多を一那由他となし

那由他の那由他を一瓔罍となし……

不可量の不可量を一不可量転となし

不可量転の不可量転を一不可説となし

不可説の不可説を一不可説転となし……》

転々として輪廻転生

千手の指を折りまげて

想いだすのは知らぬことばかり

ありあけの月

菩薩の行海

その海の底 猫眠る

海の色ある眼をとじて

波

うねり

そして抱擁

銀色の背ひれなびれ方しれず

光りの海に影の島々

重々無尽の波の底に

水煙けぶる七堂伽藍

虚空にありありあけの大法輪

転々として可説不可説

この海は猫のみた夢

……………

〔作曲者注〕

洛叉(らくしゃ)、俱胝(くいてい)、

那由他(なゆた)、

瓔罍(びんばら)、不可量、不可量

転、不可説、不可

説転等はサンスクリット語の数の単

位である。

ちなみに洛叉は十万

俱胝は千万

阿婁多は千万×千万…

以下これに準ずる

詩集「運喰いびと」より

# ◆1991～1993 小田原男声カレンダールンダー(予定も含む)

年月日	曜	演奏会名等	会場	指揮
91. 7. 13	日	第20回定期演奏会	小田原市民会館	多田武彦・渡辺決己
91. 9. 8	日	ハイトン「四季」	伊勢原市文化会館	黒岩英臣
91. 10. 19	土	モーツァルト レクイエム	小田原市民会館	黒岩英臣
92. 5. 17	日	あしがら 第九	松田町民ホール	梅田俊明
92. 6. 13	土	定期演奏会強化合宿	松田中学 寄	外山浩爾・渡辺決己
92. 6. 14	日			
92. 6. 21	日	第41回湘南合唱祭	伊勢原市文化会館	渡辺決己
92. 7. 11	土	第21回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾・渡辺決己
92. 10. 4	日	小田原市民合唱祭	小田原市民会館	
92. 10. 18	日	南足柄中学校音楽会	南足柄文化会館	渡辺決己
92. 10. 31	土	西湘音楽フェスティバル ベートーベン「荘厳ミサ」	小田原市民会館	黒岩英臣
92. 11. 22	日	第11回JAMCA(日本男声合唱協会)	愛知文化会館	渡辺決己
92. 11. 23	月			
93. 7. 10	土	第22回定期演奏会	小田原市民会館	

# ◆1991～1992 演奏曲目(第20回定期～第41回湘南合唱祭)

No.	作曲者	曲
1	多田武彦	男声合唱組曲「柳河風俗詩」
2	多田武彦	男声合唱組曲「三崎のうた」
3	モーツァルト	「汝・宇宙の魂に」
4	モーツァルト	「フリーメイソンのよるこび」
5	モーツァルト	フリーメイソンのカンタータ「われらの喜びを高らかに告げ」
6	ヴェルディ	「トロヴァトーレ」より 第3幕 第1場 兵士の合唱「ラツパの誓ぎに」
7	ヴェルディ	「サブッコ」より 第3幕 第2場 アブライの捕虜たちの合唱
8	ヴェルディ	「トロヴァトーレ」より 第2幕 第1場 鍛冶屋の合唱「朝の光がさして」
9	ヴェルディ	「リゴレット」より 第1幕 第2場 廷臣たちの合唱「静かに静かに」
10	ヴェルディ	「リゴレット」より 第2幕の合唱 廷臣たちの合唱「公爵・公爵」
11	ハイトン	「四季」
12	モーツァルト	「レクイエム」
13	ベートーベン	「第九」交響曲
14	新実徳英	「やさしい魚」

## 美しい合唱は人生のロマン オダダンの楽しき仲間達

### トップテノール

高藤恵司(厚木) 福嶋 修(小田原) 日置達男(南足柄)  
 加藤 兀(大磯) 西山広木代(二宮) 中島弘光(南足柄)  
 北岡一夫(厚木) 長谷川幸雄(小田原) 森中 勉(秦野)  
 加藤重喜(秦野) 堀内哲夫(大井)

### セカンドテノール

青野正純(小田原) 吉田 晃(小田原) 鈴木幸三(山北)  
 井筒 稔(海老名) 小野 豊(小田原) 鈴木昌弘(小田原)  
 佐藤晴孝(二宮) 青野幸夫(秦野) 高橋 潔(平塚)  
 平山 諭(南足柄) 佐々木 純(南足柄) 宝子山尚生(小田原)  
 諸橋 学(秦野) 石坂達也(南足柄)

### バリトン

足利裕之(熱海) 柏木秀茂(小田原) 下村興毅(小田原)  
 松本和夫(小田原) 氏家慶明(山北) 中島広志(厚木)  
 広田守邦(茅ヶ崎) 伊東清邦(秦野) 小林隆一(湯河原)  
 小沢 一(小田原)

### ベース

井上忠彦(小田原) 坂口宗夫(小田原) 渡辺誠之(小田原)  
 下沢 孝(小田原) 日下部 陽(平塚) 中山博之(二宮)  
 江藤凱夫(厚木) 高橋秀人(小田原) 矢島隆司(小田原)  
 赤川軍一(厚木) 杉本英樹(小田原) 一色義信(秦野)  
 遠藤俊一(秦野) 原 誠(南足柄) 曾我重康(小田原)

### 第21回定期演奏会スタッフ

実行委員長 齋藤恵司 事務局 井上忠彦 会計 佐藤晴孝 演出 松本和夫  
 プログラム 足利裕之 森中 勉 鈴木幸三 諸橋 学 デザイン 伊藤友美 合唱 福嶋 修  
 打ち上げ 杉本英樹 舞台監督 藤本慎治

### 小田原男声合唱団運営スタッフ

指揮者 渡辺決己 団長 柏木秀茂 副指揮者 松本和夫 ピアニスト 岩崎紀子  
 副団長・技術部長 松本和夫 副団長・財政部長 一色義信 副団長・団員部長 福嶋 修  
 事務局長 井上忠彦 事業部長 齋藤恵司 情報部長 日置達男 渉外部長 長谷川幸雄  
 備品部長 高橋 梁 監査 足利裕之 坂口宗夫

# アポロピア

東洋ピアノ製造株式会社



## 井上楽器

小田原お経端通り  
TEL. 24-0515